

平成 23 年度 第 2 回 平塚市博物館協議会 会議録

開催日時

平成 23 年 12 月 1 日（木）10 時～11 時 30 分

開催場所

平塚市博物館 特別研究室

会議出席者（敬称略）

会 長 立山 洋典

副会長 牧野 久実

委 員 村松 芳雄、石綿 進一、毛利 加代子

事務局 鳳館長、澤村館長代理、縣館長代理

会議の概要

1. 館長あいさつ

館長 今日も忌憚のないご意見をよろしく申し上げます。

2. 会長あいさつ

会長 全員のご出席をいただきまして、会議が成立いたしました。

議 題

(1) 報告事項等について

①平成 23 年度 10 月までの事業について

②夏期節電対応について

(2) 今後の事業計画について

(3) 冬期特別展について

(4) その他

・事務連絡（次回日程調整）等

以上の議題（1）の①について澤村館長代理が協議会資料により説明。

〔質疑応答〕

委 員 プラネタリウムで（資料の）「以降の投影については土・日に各 2 回投影」の「以降」というのは、「銀河鉄道の夜」以降の現在は、ということでしょうか。

事務局 はい、資料が分かりにくくて申し訳ありません。「銀河鉄道の夜」以降の、「見えない光で宇宙を探る」と「フリートークプラネタリウム」については、土・日各 2 回の投影ということになります。

事務局 この一般投影は個人のお客様に向けてのものです。学校向けの団体投影で、水・木・金と週の 3 日が埋まっています。

委 員 「銀河鉄道の夜」の投影権は買っているのですか、借りているのですか。

事務局 上映する権利を買っていることになります。

委 員 期限もあるのですか。

事務局 はい、期限もあります。

委員 もうかなり前から上映していますよね。

事務局 今回は、あの時とは別の契約になっております。今回も1年間の契約になっています。

(議題(1)の②について縣館長代理が協議会資料により説明。)

委員 冬期の節電についてはどうですか。

事務局 節電要請は来ていませんが、当館の場合、冬季はガスによる温水暖房なので節電面では有利かと思えます。ガスボイラーなどの設備が古いので、運転面で気を使う必要がありますが、他の電気暖房の施設より多少良いかもしれません。

委員 こういう博物館施設は何が一番使うのでしょうか。

事務局 電気料金の支出が断然大きいです。これ以上できないところまで節電の努力をしていますが、プラネタリウムや展示の照明、夏場の冷房など、来館者のために一定程度必要です。古い機械で運転効率が悪いのですが、予算面で更新が難しい状況です。

委員 照明コストの削減のために、設備費は掛かりますが、長期的に見ればLEDに変えることも考えられますね。

事務局 去年から半分ほどLEDに変えておまして、今年の夏の節電対策以前から博物館として取り組んできました。そこから更に削減をとということで、かなり大変でした。

委員 (2階の)展示室も1時から閉鎖したということですが、商売をちょっとやめるという感じですから、お客さんも「えっ」と思うでしょうね。

事務局 今回だけドラスティックな緊急措置を取らせていただきましたが、お客様にもご迷惑をお掛けしますし、二度としたくないと思います。仮にまた節電対策を取らざるを得ない場合は、別の方法を考えたいと思います。

委員 もともと努力されていたなかで更に削減をとというのは過酷なことで、事業にも差し支えますからね。

(議題(2)について澤村館長代理が協議会資料により説明。)

委員 イブニングミュージアムウィークの「学芸員よもやま話」は午後6時から7時までということですが、どのような方々が来られていますか。ご高齢者の方は家にいらっしゃりたい時間ですし、お子さんは出にくいかもしれませんし、家事をされている方は結構忙しいかもしれませんので、微妙な時間設定ではないかと思うのですが。

事務局 ご家族連れの方はあまりいらっしゃいません。比較的高い年齢層の方が多いかもしれません。ご指摘の通り、この時間、ご高齢の方の多くが外出を控えられるのは事実かと思えます。ただ、博物館の近隣にお勤めで、平日は閉館時間前になかなか利用できない方々がいらっしゃいます。私どもの狙いとして、そうした方々がもう少し来てくださるかなと思っていたのですが、期待していた人数にはなっていないのが正直なところです。

委員 新しい来館者を開拓する意味で、大事な層の方々かもしれませんね。

事務局 参加されている方の半分ほどは他の時間帯の事業でもいらっしゃっている方、半分は他の時間帯の事業ではお見かけしない方、そのような構成になっております。

委員 そもそもはお仕事帰りの方のため、ということであったと思いますが、実態としてそう

なっていないのであれば、これから新年度が始まる時期、博物館全体の活動やサークル入会などをお知らせすることができる春の時点で、しかも夜ではなくて、特別展期間の土日の午後を利用して学芸員の特別講話などを行うほうが、別の新しい層の方々が参加しやすいのではないかと思います。イブニングミュージアムウィークを何年間か続けてこられて、これを見直すようなことは考えていらっしゃるのでしょうか。

事務局 確かにご指摘通りのこともあると思います。本来、イブニングミュージアムウィークは秋の特別展の時に「学芸員のよもやま話」をするということでスタートしましたので、それをそっくり春に移せば良いということにもなるのですが、文化に親しむのに良い秋という時期にこだわりたいという部分もあり、何年か続けさせていただいています。もう少し、そうしたことをきちんとアピールして、来ていただける層を増やす努力をしたうえで、ご提案のように、学芸員が市民の方に直接お話する時間や回数を増やすという意識で取り組むことができると考えております。もう少しお時間をいただいて考えさせていただきたいと思います。

(議題 (3) について澤村館長代理が特別展会場にて解説。)

(4) その他

- ・ 次回日程は平成 24 年 3 月 9 日 (金) 午前 10 時～を予定。
- ・ 寄贈品コーナー「縄文の至宝 上ノ入遺跡」について栗山学芸員が会場にて解説。